

# ETHERNET

## 取扱説明書

第2版

製品をご使用前に必ず本書をお読みください。  
本書は製品とともに保管してください。

アンリツ株式会社  
メジャメント ソリューションズ

管理番号 : M-W1861AW-2.0

## 安全情報の表示について

当社では人身事故や財産の損害を避けるため危険の程度に応じて下記のようなシグナルワードを用いて安全に関する情報を提供しています。記述内容を十分理解して機器を操作するようにしてください。（下記の表記およびシンボルは、そのすべてが本器に使用されているとは限りません。また外観図などが本書に含まれるとき製品に張り付けたラベルなどが、その図に記入されていない場合があります。）

### 説明書中の表示について



**危険**

回避しなければ死亡または重傷に至る切迫した危険状況があることを警告しています。



**警告**

回避しなければ死亡または重傷に至る可能性がある潜在的危険について警告しています。



**注意**

回避しなければ軽度または中程度の人体の傷害に至る可能性がある潜在的危険または物的損害の発生のみが予測されるような危険状況について警告しています。

### 機器に表示または説明書に使用されるシンボルについて

機器の内部や操作箇所付近に、あるいは説明書に安全上あるいは操作上の注意を喚起するための表示があります。これらの表示に使用しているシンボルの意味についても十分理解して注意に従ってください。



禁止行為を示します。丸の中や近くに禁止内容が書かれています。



守るべき義務的行為を示します。丸の中や近くに守るべき内容が書かれています。



警告や注意を喚起することを示します。三角の中や近くに、その内容が書かれています。



注意すべきことを示します。四角の中にその内容が書かれています。



このマークを付けた部品がリサイクル可能であることを示します。

ETHERNET

取扱説明書

2001年4月9日（初版）

2001年7月6日（第2版）

- ・予告なしに本書の内容を変更することがあります。
- ・許可なしに本書の一部または全部を転載することを禁じます。

Copyright © 2001, ANRITSU CORPORATION

Printed in Japan

## 商 標

Microsoft, MS-DOS, Windows は米国 Microsoft Corporation の米国および、その他の国における登録商標です。

PathWay Runtime, および PathWay Access は米国 Attachmate Corporation の米国および、その他の国における登録商標です。

# 目次

<b>第 1 章 概要</b> .....	<b>1</b>
1.1 製品概要 .....	2
1.2 取扱説明書構成 .....	3
1.3 機器構成 .....	3
<b>第 2 章 ネットワークへの接続方法</b> .....	<b>5</b>
2.1 ケーブル接続 .....	6
2.2 ネットワーク設定手順 .....	7
2.2.1 はじめに .....	7
2.2.2 設定手順 .....	8
2.3 動作確認 .....	11
2.3.1 はじめに .....	11
2.3.2 PING の起動 .....	11
2.4 自己診断 .....	13
2.4.1 はじめに .....	13
2.4.2 自己診断手順 .....	13
<b>第 3 章 FTP</b> .....	<b>17</b>
3.1 FTP の概要 .....	18
3.2 FTP クライアントの使い方 .....	19
3.2.1 FTP クライアント概要 .....	19
3.2.2 FTP クライアントの操作 .....	19
3.2.3 ツールバー .....	22
3.2.4 セッションの新規作成 .....	24
3.2.5 ファイル操作 .....	25
3.2.6 スクリプトファイルの動作 .....	29
3.2.7 セッション設定の保存 .....	29
3.2.8 セッションファイルのオープン .....	29
3.2.9 複数セッションのオープン .....	30
3.2.10 セッションファイルの編集 .....	30
3.2.11 セッションのクローズ .....	30
3.3 FTP サーバの使い方 .....	31
3.3.1 FTP サーバの起動 .....	31
3.3.2 FTP Server ウィンドウの設定 .....	32
3.3.3 ユーザアクセスの管理 .....	33
3.3.4 FTP サービスの管理 .....	38

<b>第 4 章 ソフトウェアのリカバリー方法 .....</b>	<b>39</b>
4.1 概 要.....	40
4.2 リカバリーの手順.....	41



# 第 1 章 概要

## 1.1 製品概要

---

ETHERNET オプション（以下、本オプション）は、MP1632C 3.2G デジタルデータアナライザ（以下、本体）のオプションです。本オプションを装着することで、本体を 10M ビット/秒のイーサネットにより LAN 接続することができます。

本オプションは IEEE802.3 に準拠しており、TCP/IP プロトコルによるデータ通信を可能にします。

本オプションにより、本体を LAN につないで下記の機能を実現できます。

### イーサネットインターフェースによるリモート制御

LAN 上の任意の PC をコントローラとして、 GPIB インタフェース、RS-232C インタフェースを用いたリモート制御と同様、測定器のリモート制御が可能です。

測定器制御アプリケーション側の設定に関しては、MP1632C 添付のリモートコントロール取扱説明書「2.3 Ethernet インタフェース」をご覧ください。

### FTP によるファイル転送

FTP クライアント、FTP サーバーソフトウェアが本体にインストールされます。これらを用いて本体と LAN 上の PC との間で、パターンファイルや設定保存ファイルを転送することができます。



## 1.2 取扱説明書構成

本取扱説明書は下表に示す全4章から構成されています。

表 1-1 説明書構成

章番号	説明
第1章 概要	製品概要, 取扱説明書の構成, 機器構成
第2章 ネットワークへの接続方法	ネットワークへの接続方法, ネットワーク接続に必要な各種パラメータの設定方法, ネットワークへの接続試験方法
第3章 FTP	FTP サーバおよび FTP クライアントの操作方法
第4章 再インストールの方法	リカバリソフトウェアの操作方法

## 1.3 機器構成

本器の標準構成は下表のとおりです。

表 1-2 標準構成

項目	形名・記号	品名	数量	備考
機器の構成	MP1632C*02	イーサネット LAN アダプタ	1	本体装着済み
添付品	Z0398/Z0538	ETHERNET Installation DISK	4	イーサカードが 3 comCE の場合 Z0538 となる
	W1861AW	ETHERNET 取扱説明書	1	



本オプションの交換はお客様自身で行わないでください。交換は当社サービス部門にて行いますので、最寄りの当社営業所又は代理店へお申し付けください。負傷、または死につながる感電事故を引き起こすおそれがあります。



## 第2章 ネットワークへの接続方法

## 2.1 ケーブル接続

図 2-1 に示すように、シールドなしツイストペアケーブルの一端を背面パネルのイーサネットコネクタに、もう一端を 10BASE-T ハブに接続してください。RJ-45 コネクタは、正しい方向に「カチッ」という音がするまで差し込んでください。

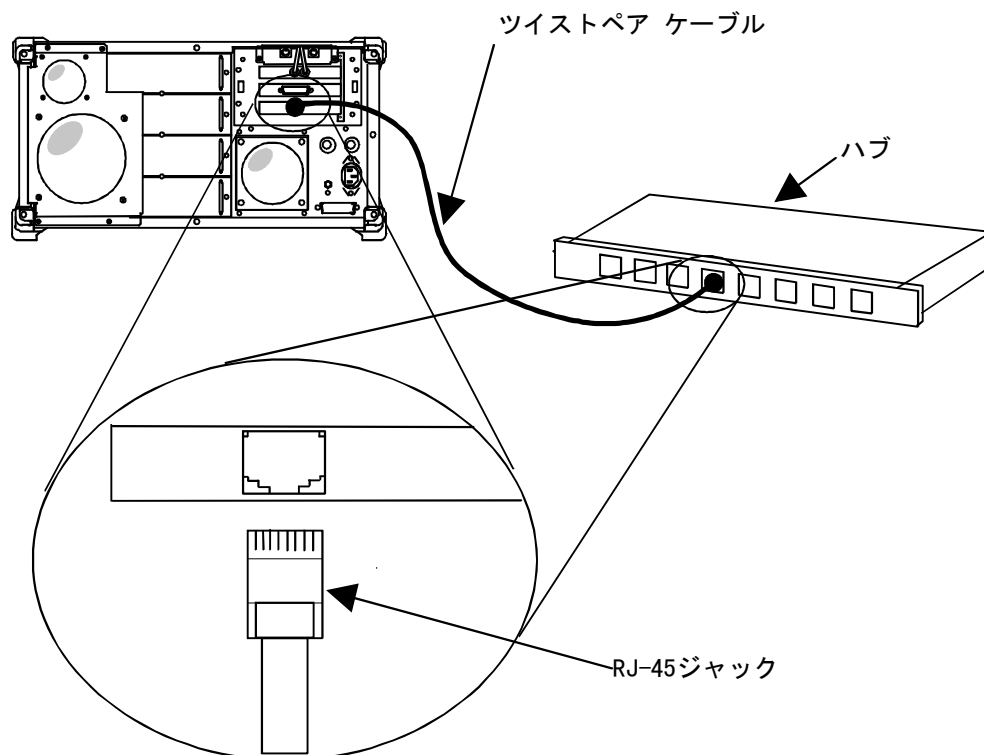


図 2-1 ケーブル接続

### Note

測定器からハブまでの距離が 100 m (328 フィート) 以内になるように配線してください。

## 2.2 ネットワーク設定手順

---

### 2.2.1 はじめに

本オプションにより LAN 接続された測定器は、LAN 上の PC やネットワークプリンタなどと同列な 1 ノードとして振る舞います。このため、測定器が接続される LAN 環境に合わせた設定が必要です。本オプション出荷時にはこのような設定がなされていないので、本節で説明する手順に従ってユーティリティプログラムを起動し、各種設定を行ってください。

なお、ユーティリティプログラムは本取扱説明書で説明する以外の設定項目も含まれます。そのような設定についてはオンラインヘルプを参照し、ネットワーク管理者の承認のもとで設定を行ってください。

以下、本取扱説明書で説明する設定項目を列挙します。

1) **User name**

ユーザを特定するための名前です。

2) **Computer name**

ネットワーク上で測定器を特定するための名前です。ホスト名ともいいます。ホスト名は LAN 上で他のホストと重複しない名前にする必要があります。測定器のホスト名割り当てについてはネットワーク管理者にお尋ねください。また、DNS (Domain Name Server : 後述) をお使いのネットワークの場合、DNS サーバーに登録されたホスト名を正確に入力してください。

3) **Domain name**

組織内における、個々のネットワークに付けられた名前です。ドメイン名の最後にはトップレベルインターネットドメイン名がピリオドで連結されます。たとえばドメイン名 **Anritsu.com** はトップドメイン **com** に属する **Anritsu** という会社のドメイン名です。

4) **IP address**

Internet Protocol(IP)におけるアドレスです。インターネット上に存在するすべてのホストは IP アドレスが割り当てられている必要があります。また、IP アドレスの重複は許されません。

5) **Subnet mask**

測定器のつながっているサブネットワークに割り当てられたサブネットマスクです。サブネットマスクの値は LAN がどのように構成されているかに依存します。詳しくはネットワーク管理者にお尋ねください。

6) **DNS(Domain Name System)**

インターネット上で、あるノードを指定するためには IP アドレスで指定しますが、数値の集合である IP アドレスは記憶しづらいものです。DNS はホスト名を IP アドレスに変換するための仕組みです。この役目を果たすものには **Hosts** ファイルと、DNS サーバーがあります。**Hosts** ファイルはローカルのハードディスクにある、ホスト名と IP アドレスの変換テーブルです。DNS サーバーはネットワーク上におかれた DNS 専用のホストで、IP アドレス-ホスト名の変換テーブルをネットワーク上で一括して管理します。

## 2.2.2 設定手順

1. 測定器の電源を入れます。
2. 測定器の制御アプリケーションが起動しますので、File メニューから Exit を選択して制御アプリケーションを終了してください。
3. プログラムマネージャより、「PathWay Runtime」グループを開いてください。



図 2-2 PathWay Runtime グループ

4. 「Config」アイコンをダブルクリックしてください。ネットワーク設定ユーティリティプログラムが起動します。

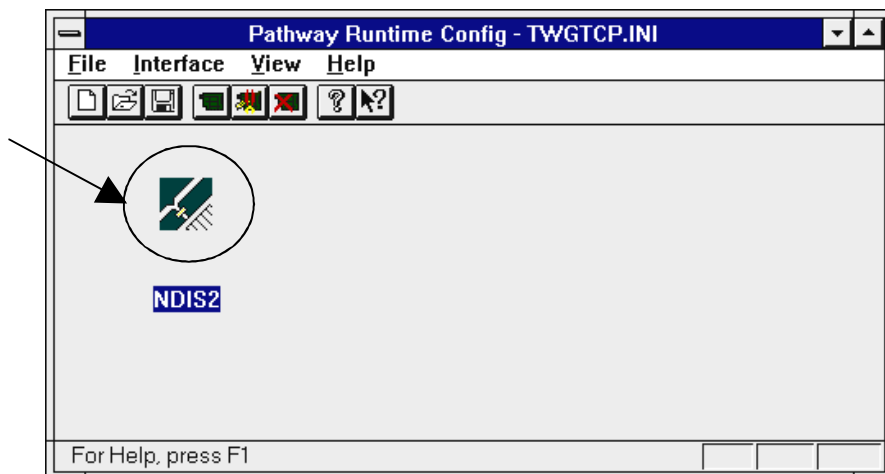


図 2-3 ネットワーク設定ユーティリティ(Config)起動画面

5. 図 2-3 中の矢印のアイコンをダブルクリックしてください。設定用のダイアログボックスが開きます。

6. インタフェース設定を行うために、図 2-4 中の矢印のアイコンをクリックしてください。

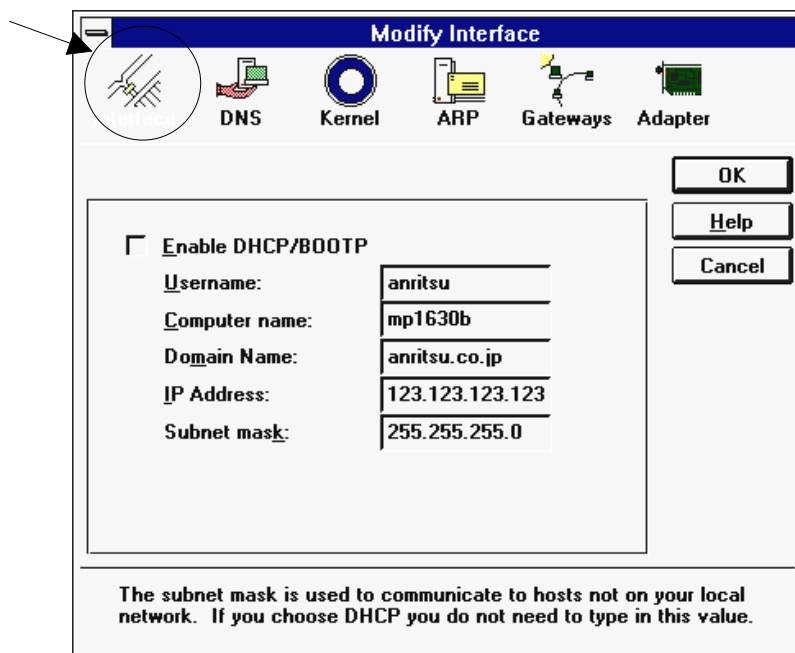


図 2-4 Modify Interface ダイアログボックス(Interface)

お客様の環境に合わせて、表 2-1 に示すパラメータを設定してください。なお、各設定に関しては本器を接続するネットワークのネットワーク管理者とご相談ください。

表 2-1 Interface Setting 設定項目

設定フィールド	概要説明
Enable DHCP/BOOTP check box	使用しません。OFF（未チェック状態）のままにしてください
Username: text box	Username は本器を示すアカウント名となります。本器にログインする際に使用するアカウント名を入力してください。 スペースを含まない 256 文字以内としてください。
Computer name: text box	IP アドレスと対応づけられた、機器の固有名です。ホスト名は本器に対して割り当てられたユニーク（固有）なものを付ける必要があります。 スペースを含まない 256 文字以内としてください。
Domain Name: text box	本器が接続されているネットワークのドメイン名を入力してください。 29 文字以内としてください。
IP Address: text box	お客様のネットワーク上で割り当てられた、本器の IP アドレスを入力してください。IP アドレスは 32 ビット値を 8 ビットずつ、4 つの 10 進数に分け、セパレータ(.)で区切って表記します。図中の例では 123.123.123.123 のアドレスを入力しています。
Subnet mask: text box	本器が接続されるネットワークのサブネットマスクを入力します。フォーマットは IP アドレスと同様です。サブネットマスクは接続するネットワークのクラスによって異なります。

7. DNS の設定を行うために、図 2-5 中の矢印のアイコンをクリックしてください。

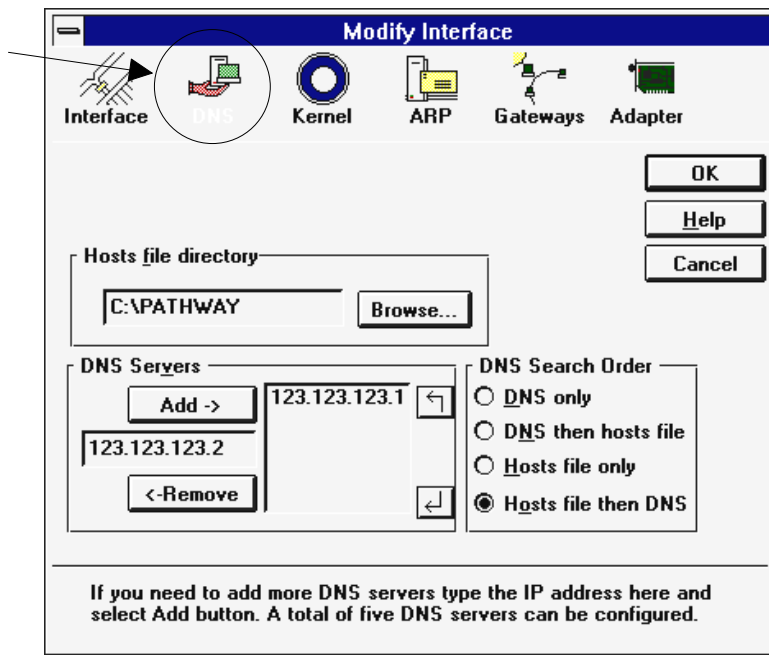


図 2-5 Modify Interface ダイアログボックス(DNS)

Hosts ファイルをお使いの場合は、Hosts file directory グループボックス内で Hosts ファイルの存在するディレクトリを指定してください。

DNS サーバーお使いの場合は、DNS Servers グループボックス内、左側のテキストボックスに DNS サーバーの IP アドレスを入力し、「Add->」ボタンを押してください。DNS サーバーは複数登録できます。

DNS サーバーを削除するためには、DNS Servers グループボックス内、右側のリストボックス内の DNS サーバーの IP アドレスをクリックして反転し、「<-Remove」を押してください。

DNS Servers グループボックス内の DNS Search Order の意味は下記のとおりです。

- DNS only  
ホスト名を IP アドレスに変換するのに DNS サーバーのみを使用します。
  - DNS then HOSTS file  
まず DNS サーバでホスト名を検索し、見つからなかった場合は Hosts ファイルを検索します。
  - HOSTS file only  
ホスト名を IP アドレスに変換するのに Hosts ファイルのみを使用します。
  - HOSTS file then DNS  
まず HOSTS ファイルでホスト名を検索し、見つからなかった場合は DNS サーバーを検索します。
8. すべての設定が終わったら、OK ボタンを押して Modify Interface ダイアログボックスを閉じてください。
9. File メニュー (図 2-3) より Exit を選択して設定ユーティリティを終了してください。終了時「Save Changes to C:\PATHWAY\TWGTCP.INI ?」というメッセージが出ますが、OK ボタンを押してください。さらに Windows に再起動を促すメッセージが出ますが、「Restart Windows」ボタンを押してください。
10. Windows が再起動し、本節で行った設定が有効となった状態で、測定器制御ソフトウェアが起動します。



## 2.3 動作確認

### 2.3.1 はじめに

ここでは、「2.2 ネットワーク設定手順」に従って行った設定が正しいことを確認するためのユーティリティ、PING の操作方法について説明します。

PING は指定ホストに対してメッセージを送信し、その返答を受信します。

### 2.3.2 PING の起動

1. 測定器の電源を入れます。
2. 測定器の制御アプリケーションが起動しますので、File メニューから Exit を選択して制御アプリケーションを終了してください。
3. プログラムマネージャより、「PathWay Runtime」グループを開いてください。



図 2-6 「PathWay Runtime」グループ

4. 「Ping」アイコンをダブルクリックしてください。PING が起動します。

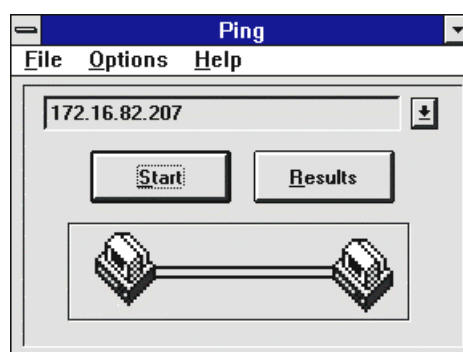


図 2-7 PING 起動画面

5. まず自分自身にデータを送信します。起動画面上部に測定器自身の IP アドレスを入力して、Start ボタンを押してください。テストの終了に合わせてアニメーションが終了します。
6. 結果を見るためには Result ボタンを押してください。

Ping Results			
Seq	Hostname	Host Address	Time (ms)
1	(Not Resolved)	172.16.82.207	2
2	(Not Resolved)	172.16.82.207	2
3	(Not Resolved)	172.16.82.207	2
4	(Not Resolved)	172.16.82.207	2
5	(Not Resolved)	172.16.82.207	2

5 sent, 5 received (0% lost) : 2 / 2 / 2 (min / avg / max)

OK Clear

図 2-8 結果表示画面

5 回分のテスト結果が表示されます。Hostname 欄は DNS によるホスト名-IP アドレス変換の結果を表します。DNS 設定あるいはドメイン名設定に不備がある場合、もしくは DNS を使用していない場合に「Not Resolved」がレポートされます。Time 欄には応答時間が表示されます。

OK ボタン上部のメッセージが「0% lost」になっていれば成功です。

メッセージがいくつかロスしてしまう場合は、メッセージ間のインターバルが小さすぎる可能性があります。起動画面 (図 2-7) の Option メニューから、「Delay Between each Ping」を選択してインターバル時間を設定してください。

- 次に LAN 上の任意のホストに対して送信テストを行ってください。
- DNS の試験をする場合は、まず、option メニューより、「Resolve IP Addresses」をチェックしてください。次に任意のホストのホスト名を、IP アドレスの代わりに入力して送信テストを行ってください。

送受信に失敗した場合は、ネットワーク設定に何らかの不都合があることを示しています。ネットワーク管理者に確認の上、再度ネットワーク設定を行ってください。また、自分自身に対してテストが失敗した場合は ETHERNET ボードの故障の可能性があります。「2.4 自己診断」で説明する手順に従って、自己診断を行ってください。

## 2.4 自己診断

### 2.4.1 はじめに

自分自身に対して PING が失敗した場合、ETHERNET ボードの故障に可能性があります。この場合、本説で説明する ETHERNET の自己診断機能を利用して、ETHERNET ボードに異常がないか確認してください。

### 2.4.2 自己診断手順

1. 「2.1 ケーブル接続」に従って、ケーブルの両端を接続してください。
2. 測定器の電源を入れます。
3. 測定器の制御アプリケーションが起動しますので、File メニューより「Exit」を選択して、制御アプリケーションを終了してください。
4. プログラムマネージャの File メニューより「Exit Windows」を選択して、Windows を終了してください。メニュー画面が表示されます。

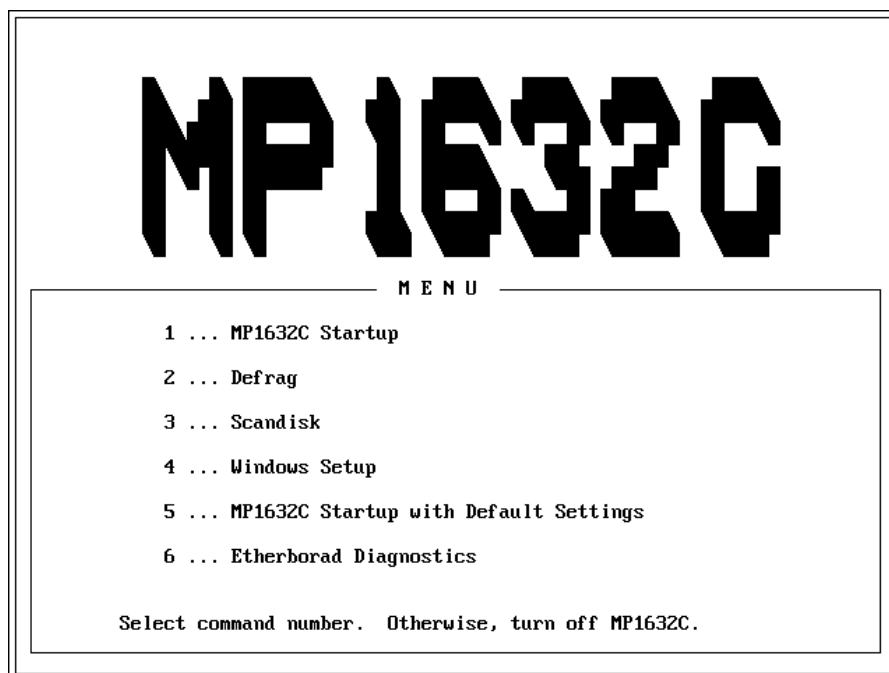


図 2-9 メニュー画面

5. パネルキーの 6 を押して自己診断を起動してください。

6. ここでイーサカードの裏を確認し、図のように 3 comCE と記述されていない場合は A へ、記述されている場合は B へ進んでください。

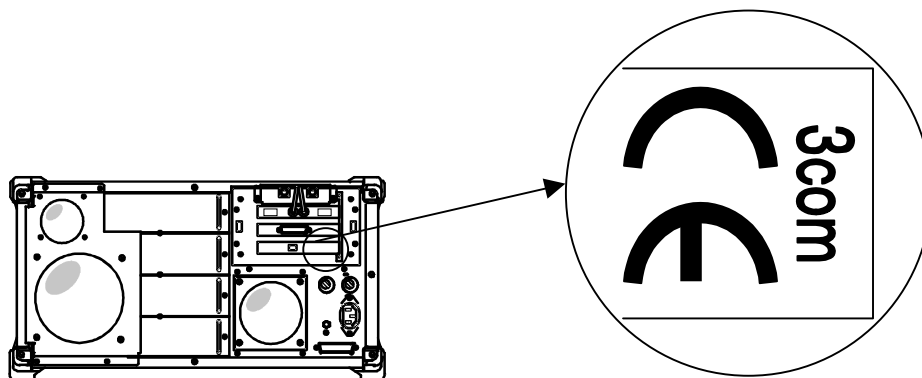


図 2-10 イーサカード

- A. 3 comCE と記述されていない場合

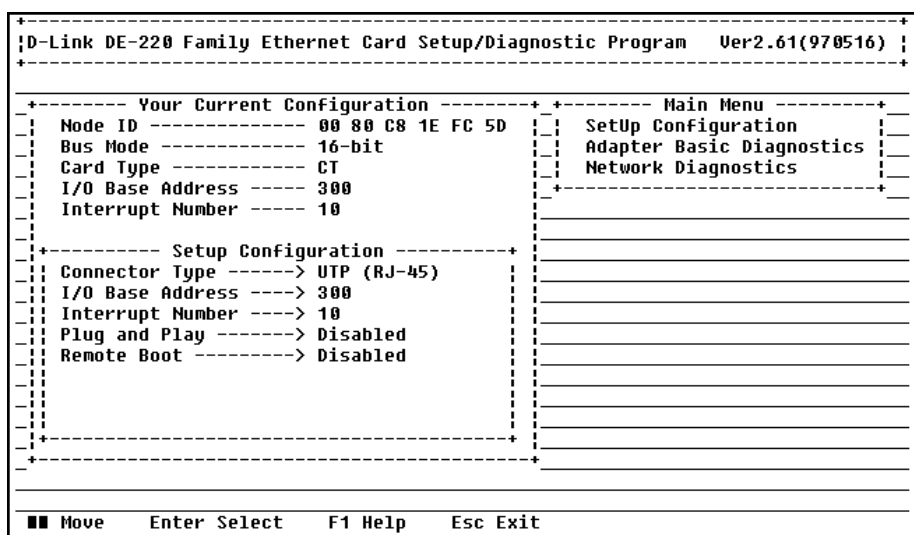


図 2-11 自己診断メインメニュー画面

1. 矢印キーを使って画面右上部のメニューより、「Adapter Basic Diagnostics」を選択して、Enter キーを押してください。自己診断が始まります。

```

+-----+
|D-Link DE-220 Family Ethernet Card Setup/Diagnostic Program Ver2.61(970516)|
+-----+
+-----+
| Adapter Diagnostic |
+-----+
| Node ID           : 00 80 C8 1E FC 5D |
| I/O Base Address  : 300                |
| Connector Type    : UTP (RJ-45)       |
| Interrupt Number  : 10                |
| Cycle            : 0                  |
| Current I/O Base Address ..... PASS  |
| DC-DC Convert, Oscillator, Crystal T7213 ... PASS |
| EEPROM ..... Testing                 |
| LAN Setup Registers ..... Unknown    |
| Memory ..... Unknown                 |
| LAN Control Functions ..... Unknown  |
| Cable Connection  ..... Unknown     |
| Loopback Mode Testing ..... Unknown  |
+-----+
| Esc Exit |

```

図 2-12 自己診断画面

**Note**

- メインメニューにて「Adapter Basic Diagnostics」以外の項目を選択し、何らかの設定を変えてしまうと、ETHERNET ボードが正常に動作しなくなるおそれがあります。「Adapter Basic Diagnostics」以外の項目は選択しないように注意してください。
- Loopback Mode Testing 項目は 30 秒から 1 分ほど時間がかかります。

2. 正面パネルの Remote キーが「ESC」に、M/k キーが「F1」にそれぞれ対応しています。自己診断を終了するには Remote キーを押してください。

自己診断により異常が検出された場合は、本取扱説明書の巻末に記載の最寄りの支社、支店、営業所もしくは代理店へご連絡ください。

B. 3 comCE と記述されている場合

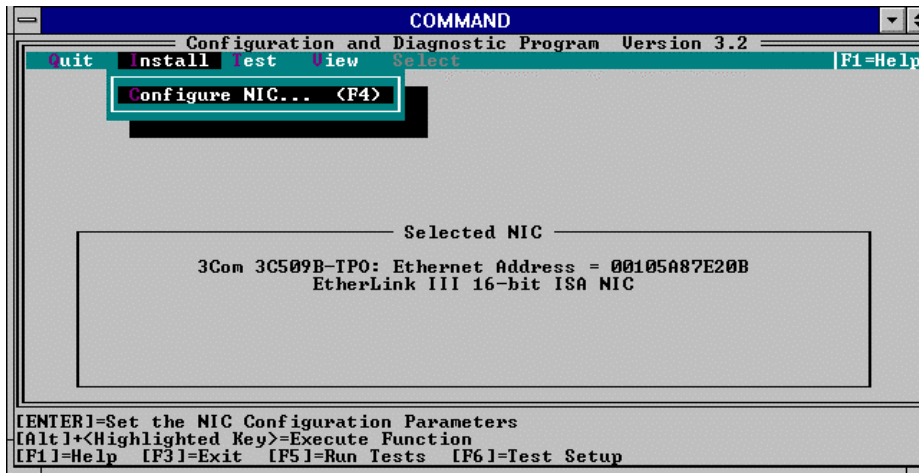


図 2-13 自己診断メインメニュー画面

1. 画面上のメニューより「Test」を選択して、Enter キーを押してください。次に「Run Tests」を選択して、Enter キーを押してください。自己診断画面に移ります。

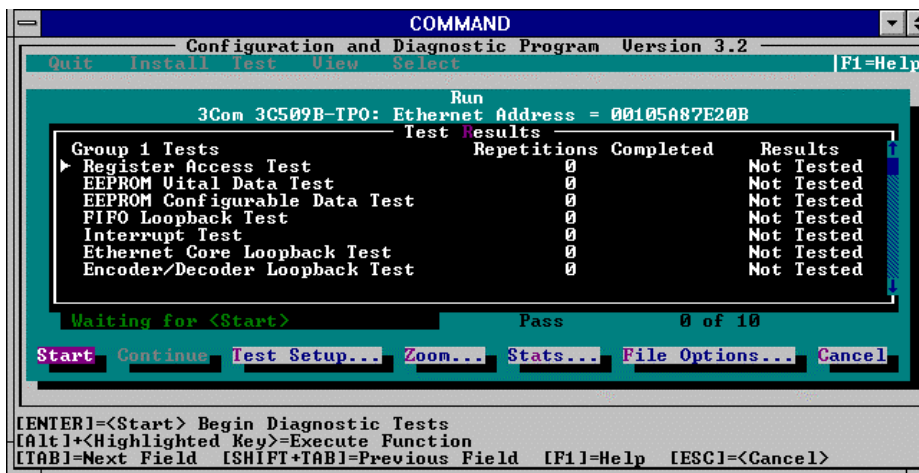


図 2-14 自己診断画面

2. 画面下のメニューより「Start」を選択して、Enter キーを押してください。自己診断が始まります。
3. 自己診断が終わりましたら画面下のメニューより「Cancel」を選択して、Enter キーを押してください。メインメニュー画面に戻ります。自己診断を終了するには「Quit」を選択して、Enter キーを押してください。

自己診断により異常が検出された場合は、本取扱説明書の巻末に記載の最寄りの支社、支店、営業所もしくは代理店へご連絡ください。

## 第 3 章 FTP

### 3.1 FTP の概要

---

FTP(File Transfer Protocol)はネットワーク上のホストマシン間でファイルの転送を可能にするプロトコルです。本オプションでは、FTP を用いたアプリケーションである、FTP クライアントと FTP サーバーを用意しています。

FTP クライアントは本器とリモートホスト間のファイル転送を可能にし、FTP サーバーは他のユーザがリモートホストから本器上のファイルにアクセスすることを可能にします。

本章では FTP クライアントと FTP サーバの基本的な使用方法について説明します。なお、本章で説明されていない事項に関しましてはオンラインヘルプをご参照ください。

#### Note

---

---

FTP アプリケーションを起動する前に本器の MP1632C の制御アプリケーションを終了してください。FTP アプリケーションと制御アプリケーションを同時に起動するとシステムが誤動作するおそれがあります。

---

---



## 3.2 FTP クライアントの使い方

### 3.2.1 FTP クライアント概要

FTP クライアントは本器上のファイルを他のホストマシンへ転送したり、他のホストマシンからファイルを取得するための Windows 用アプリケーションソフトです。本器で測定された測定結果や他のマシンで用意された設定ファイルなどを転送および取得するために使用します。

FTP クライアントを使用する前に以下の確認をしてください。

- リモートホストとのアクセスが可能であるか再度ご確認ください。ここでは 2.2 章での Config 設定および、2.3 章での Ping も正常に動作していることを前提としています。
- リモートホストを管理するネットワーク管理者を通じて、以下の事項を確認してください。
  1. リモートホストに、本器からのアクセスに対する有効なアカウントがあるか。またそのアカウントに与えられている権限は、これから行うファイル操作を満たしているものか。
  2. リモートホストの IP アドレス、公式なホスト名、あるいは別名(Alias)
  3. リモートホストに FTP サーバーが起動されているか。Open VMS や UNIX といったオペレーティングシステムでは常に FTP サーバーが起動されています。
- リモートのオペレーティングシステムにおけるファイル構造、ファイル命名規則についてご確認ください。

### 3.2.2 FTP クライアントの操作

1. プログラムマネージャより、「PathWay Access」グループを開いてください。

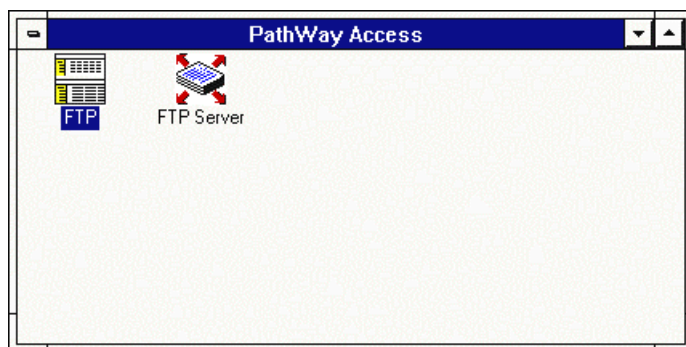


図 3-1 PathWay Access グループ

2. FTPアイコンをダブルクリックしてください。FTP ウィンドウが開きます。

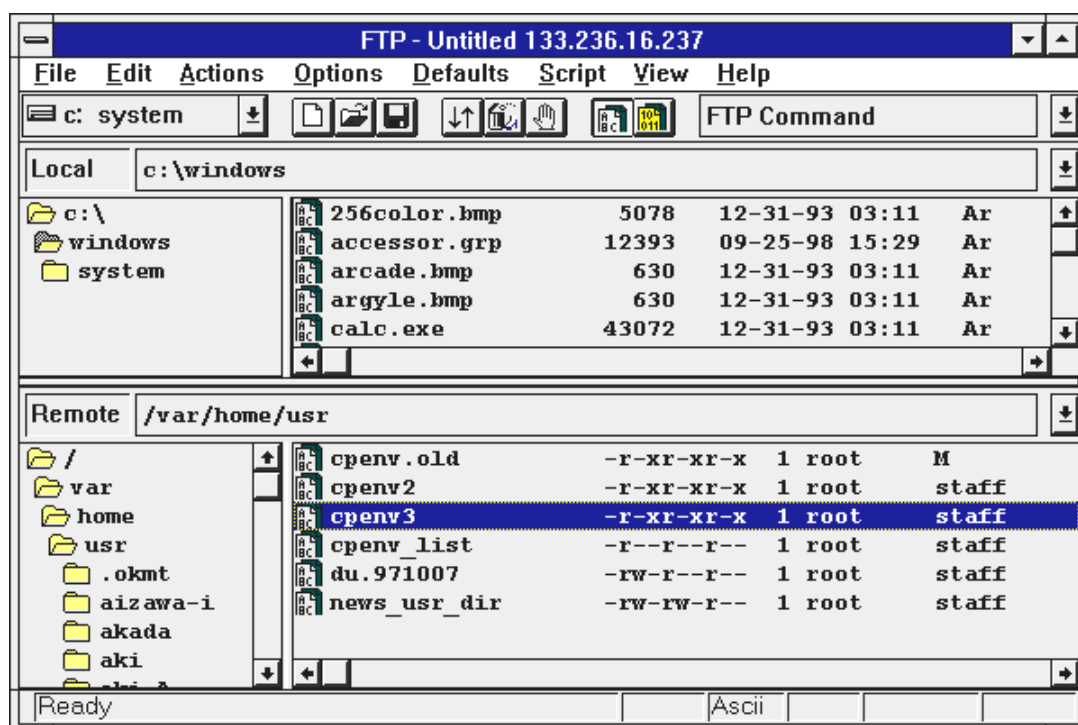


図 3-2 FTP ウィンドウ

FTP ウィンドウの上段には本器のローカルファイルが表示され、下段にはリモートシステム上のファイルが表示されます。

ディレクトリやファイルの表示方法は Windows® に準じています。Windows® の標準的な操作方法により、ディレクトリやファイル選択の操作を行うことができます。

FTP ウィンドウの構成は下表のとおりです。

表 3-1 FTP ウィンドウの構成

ボタン/フィールド	詳細
FTP メニューバー	実行可能なコマンドメニューを表示します。個々のメニュー項目のクリックにより、設定画面が開きます。本書では、すべてのメニュー機能についての詳細は記述しておりません。個々の機能に関する詳細はオンラインヘルプをご参照ください。オンラインヘルプは <b>Help</b> メニューのクリックにより開きます。
ツールバー	2 つのリストボックス（本器のローカルドライブの切り替えリストと FTP Commands リスト）および数種類のアイコンを用意しています。アイコンは頻繁に使用する機能に対応したボタンになっておりボタンをクリックすると対応機能を実行します。 <i>Toolbar</i> の表示/非表示がメニューバーの <i>View</i> の <i>Toolbar</i> オプションにより設定可能です。詳細は「3.2.3 The FTP」をご参照ください。
Local: リストボックス	ローカルホスト（本器）上で現在選択されているドライブとディレクトリパスを表示します。右端にあるスクロール（矢印）ボタンをクリックすることで、過去に選択したドライブおよびディレクトリパスを選択することもできます。

表 3-1 FTP ウィンドウの構成 (続き)

ボタン/フィールド	詳細												
<i>Local:</i> フィールド	ローカルホスト (本器) 上で現在選択されているディレクトリ以下の階層のディレクトリツリーおよびファイルリストを表示します。ファイル名をクリックするとそのファイル名が反転表示します。反転表示したファイルがファイル転送(Transfer)や削除(Delete), ファイル名変更(Rename)操作の対象ファイルとなります。												
<i>Remote:</i> リストボックス	リモートホスト上で現在選択されているドライブとディレクトリパスを表示します。右端にあるスクロール (矢印) ボタンをクリックすることで、過去に選択したドライブおよびディレクトリパスを選択することもできます。												
<i>Remote:</i> フィールド	リモートホスト上で現在選択されているディレクトリ以下の階層のディレクトリツリーおよびファイルリストを表示します。ファイル名をクリックするとそのファイル名が反転表示します。反転表示したファイルがファイル転送(Transfer)や削除(Delete), ファイル名変更(Rename)操作の対象ファイルとなります。												
<i>Status:</i> フィールド	<p>現在の FTP アプリケーションの状態を表示します。</p> <p>表示例は下記のとおりです。</p> <table data-bbox="472 887 1481 1167"> <tbody> <tr> <td data-bbox="472 887 555 916"><i>Ready</i></td> <td data-bbox="700 887 1145 916">ファイル転送の指示待ちの状態です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 931 555 960"><i>ASCII</i></td> <td data-bbox="700 931 1177 960">ASCII 転送モードに設定されています。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 976 564 1005"><i>Binary</i></td> <td data-bbox="700 976 1203 1005">バイナリ転送モードに設定されています。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1021 549 1050"><i>Filter</i></td> <td data-bbox="700 1021 1481 1081">Only files having attributes you specify are displayed this option is on.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1097 584 1126"><i>Doc type</i></td> <td data-bbox="700 1097 1155 1126"><i>Doc type</i> が ON に設定されています。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1142 584 1171"><i>Ext. Trn</i></td> <td data-bbox="700 1142 1406 1171">File extension will be translated when this option is on.</td> </tr> </tbody> </table> <p>Status フィールドの表示/非表示はメニューバーの <i>View</i> の <i>Status Bar</i> オプションにより設定可能です。</p>	<i>Ready</i>	ファイル転送の指示待ちの状態です。	<i>ASCII</i>	ASCII 転送モードに設定されています。	<i>Binary</i>	バイナリ転送モードに設定されています。	<i>Filter</i>	Only files having attributes you specify are displayed this option is on.	<i>Doc type</i>	<i>Doc type</i> が ON に設定されています。	<i>Ext. Trn</i>	File extension will be translated when this option is on.
<i>Ready</i>	ファイル転送の指示待ちの状態です。												
<i>ASCII</i>	ASCII 転送モードに設定されています。												
<i>Binary</i>	バイナリ転送モードに設定されています。												
<i>Filter</i>	Only files having attributes you specify are displayed this option is on.												
<i>Doc type</i>	<i>Doc type</i> が ON に設定されています。												
<i>Ext. Trn</i>	File extension will be translated when this option is on.												


### 3.2.3 ツールバー

下記にツールバー上のリストボックスおよびボタンに対応する機能に説明します。

表 3-2 FTP ツールバー

ボタンまたはリストボックス	詳細
<b>Local drive</b> リストボックス	Local フィールドに表示するドライブを切り替えます。 本ボタンはメニューバーの <i>Actions--Change local drive</i> に対応します。 <b>Note</b> : D ドライブは仮想メモリ専用のドライブのため、ユーザが使用することはできません。
<b>Transfer</b> 	選択されているファイル（複数ファイル選択可）のファイル転送を行います。ファイルが選択されていない状態ではボタンがグレー色になっておりクリックは無効です。 本ボタンはメニューバーの <i>Actions—Transfer</i> に対応します。
<b>ASCII</b> 	ASCII（テキスト）ファイル転送モードに設定します。転送時に改行コードの変換を行います。 本ボタンのクリックによりすべてのファイルを ASCII ファイルとして転送します。ただし <i>Doc type by extension</i> （ <i>Defaults</i> メニュー）から開く <i>Set DOC Extension Type</i> ダイアログボックスで <i>Activate Doc Type</i> が ON の場合は <i>BINARY</i> で指定されている拡張子のファイルはバイナリファイルとして転送します。 本ボタンはメニューバーの <i>Defaults—ASCII</i> に対応します。
<b>Binary</b> 	バイナリ ファイル転送モードに設定します。キャラクタは転送されません。オリジナルのフォーマットのまま転送します。 本ボタンのクリックによりすべてのファイルをバイナリファイルとして転送します。ただし <i>Doc type by extension</i> （ <i>Defaults</i> メニュー）から開く <i>Set DOC Extension Type</i> ダイアログボックスで <i>Activate Doc Type</i> が ON の場合は <i>ASCII</i> で指定されている拡張子のファイルは ASCII ファイルとして転送します。 本ボタンはメニューバーの <i>Defaults—BINARY</i> に対応します。
<b>New Session</b> 	FTP セッションの新規作成を行います。本ボタンのクリックで <i>FTP Login</i> ウィンドウが表示されます。他のセッションが動作中でも新規セッションが作成可能です。新しいセッションのウィンドウは、現在接続しているセッションのウィンドウの上に表示されます。 本ボタンはメニューバーの <i>File—New</i> に対応します。
<b>File ... Save(As)</b> 	セッションの設定をファイルに保存します。 本ボタンはメニューバーの <i>File—Save As...</i> に対応します。
<b>File ... Open</b> 	保存されているセッションファイルを開きます。 本ボタンはメニューバーの <i>File—Open</i> に対応します。
<b>Stop</b> 	現在動作中の機能を中断します。 本ボタンはメニューバーの <i>Actions—Stop</i> に対応します。

表 3-3 FTP ツールバー (続き)

ボタン または リストボックス	詳細
<p><i>Delete</i></p> 	<p>選択されているファイル (複数ファイル選択可) 削除します。 本ボタンはメニューバーの <i>Actions</i> — <i>Delete</i> に対応します。</p>
<p><i>FTP commands</i> リストボックス</p>	<p>ローカルおよびリモートシステム上のファイルやディレクトリを操作するための <b>FTP</b> コマンドを選択します。 <b>FTP</b> コマンドの詳細はオンラインヘルプの"FTP Command Reference"をご参照ください。</p>

### 3.2.4 セッションの新規作成

新しいセッションを作成します。:

1. メニューバーの *File--New* を選択してください。FTP Login ダイアログボックスが開きます。

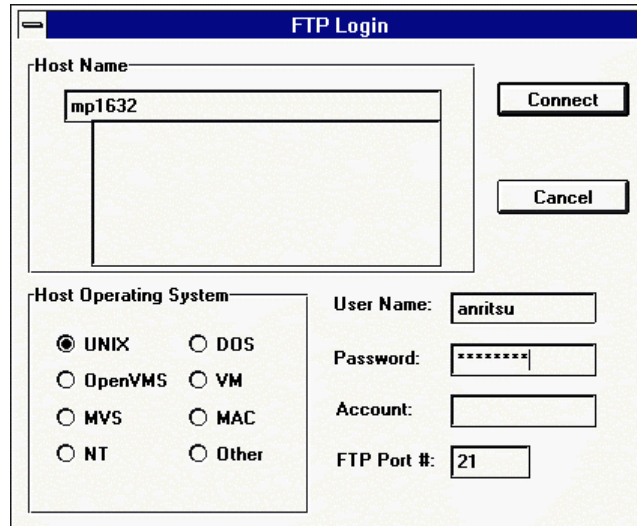


図 3-3 FTP Login ダイアログボックス

2. 設定は下記のとおりです。:

表 3-4 FTP Login ダイアログボックス

項目	詳細
<i>Host Name:</i> フィールド	接続するリモートホストの IP アドレス、公式なホスト名、あるいは別名(Alias)を入力します。(またはリストボックスから選択します。)
リストボックス	リストに表示される公式なホスト名、あるいは別名(Alias)をホスト名として選択します。
<i>User name:</i> フィールド	リモートホストに接続するためのユーザ名または ID を入力します。
<i>Password:</i> フィールド	リモートホストに接続するためのパスワードを入力します。
<i>Account:</i> フィールド	必要に応じてアカウントネームを入力します。本設定の要/不要は接続するリモートホストに依存します。本設定はネットワーク管理者にご相談ください。
<i>Host Operating System</i> チェックボックス	リモートホストのオペレーティングシステム ( <i>UNIX, OpenMVS, DOS, VM, Mac, or Other</i> ) を選択します。
<i>Cancel</i> ボタン	セッションを開始せずにダイアログを閉じます。
<i>Connect</i> ボタン	リモートホストへ接続します。リモートホストへの接続が完了すると <i>FTP</i> ウィンドウの内容が更新されます。

## Note

リモートホストに接続後、リモートホストに対して何の操作も行わない場合は接続先の FTP サーバが接続をクローズします（クローズされるまでの時間は接続先の FTP サーバに依存しています）。このような状況になっても FTP クライアントは再接続の動作をせずに繰り返し FTP サーバにアクセスしようとします。この結果、約 3 分間は何の操作も受け付けなくなり、その後警告メッセージが表示されます。この現象が発生した場合はメニューバー *File-- Disconnect Session* を選択して現在のセッションをいったん終了し、再度セッションを接続してください。

### 3.2.5 ファイル操作

セッション稼働中はメニューバーの *Actions* にあるさまざまな機能が実行可能になります。*Actions* メニューの詳細は下記のとおりです。

表 3-5 *Actions* メニューの詳細

項目	詳細
<i>Transfer</i>	選択されたファイル（複数ファイル選択可）を転送（コピー）します。
<i>Delete</i>	選択されたファイル（複数ファイル選択可）を削除します。
<i>Rename</i>	選択されたファイル（複数ファイル選択可）のファイル名を変更します。
<i>Refresh</i>	ファイルリストの表示を更新します。ファイル転送や名前の変更あるいは削除により現在のファイルリストが変更された場合に最新の情報に更新します。
<i>Stop</i>	実行中の動作をキャンセルします。 ファイル転送中にキャンセルした場合には転送中のファイルの一部が転送先ホストに残ることがあります。
<i>FTP command</i>	FTP コマンドを実行します。コマンド入力用の画面がオープンします。 FTP コマンドの詳細はオンラインヘルプの"FTP Command Reference"をご参照ください。
<i>Change local drive</i>	ローカルドライブを変更します。ローカルドライブ選択画面がオープンします。

ファイル転送手順（転送時にファイル名を変更しない場合）：

1. メニューバーの *Defaults* から転送するファイルのファイルフォーマット(*ASCII* or *Binary*)を選択します。
  - ASCII* ワープロファイル、プログラムソースコードなどを転送する場合に選択します。  
ASCII,または“text,”ファイルをコピー先のホストで扱えるフォーマットに自動的に変換します。
  - Binary* 実行ファイルやグラフィックファイルなどを転送する場合や改行コードの変換が不要な場合に選択します。フォーマット変換は一切行いません。bit-by-bit でファイルを転送します。

2. ファイルを受け取る転送先のディレクトリを選択します。転送先または転送元のディレクトリの変更は *FTP* ウィンドウのリストボックスで選択します。ドライブを変更する場合はリストボックスの左上をクリックします。
3. 転送するファイルを選択します。複数のファイルを選択する方法は下記のとおりです。（外付けのキーボードが必要です。）
  - **Ctrl** キーを押しながらファイルをマウスまたはタッチスクリーンで1つずつ選択します。
  - **Shift** キーを押しながらリストボックス上に連続して表示されているファイル群を一括で選択します。
4. メニューバーの *Actions --Transfer* を選択します。

ファイル転送手順（転送時にファイル名を変更する場合）：

1. 選択したファイルをダブルクリックします。*Local/Remote Quick Act* ダイアログボックスがオープンします。

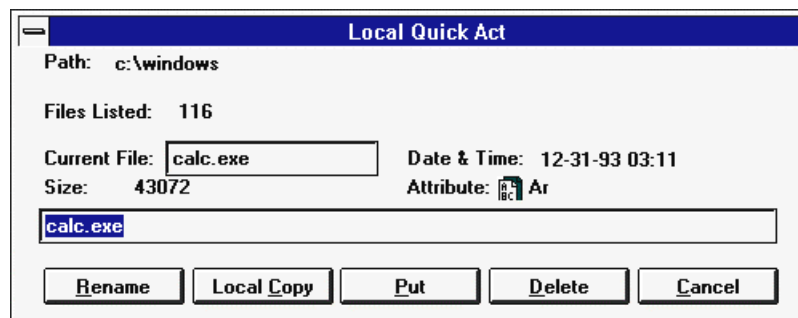


図 3-4 Local Quick Act ダイアログボックス

*Local Quick Act* では *Put*, *Rename*, *Delete*, *Cancel*, or *Local copy* が実行可能です。

*Remote Quick Act* では *Get*, *Rename*, *Delete* or *Cancel* が実行可能です。

2. ダイアログボックス上で新しいファイル名を入力し、*Put* または *Get* をクリックします。*Prompt* オプション（メニューバーの *Option--Prompt*）が ON（デフォルトは ON）の場合でかつ、転送しようとしたファイル名と同じファイル名が転送先に存在する場合は転送するファイルで既存のファイルを置き換えるかの確認メッセージが表示されます。*FTP* ウィンドウの左下に表示されるステータスフィールドには転送中のバイト数が **kByte** 単位で表示されます。



## ファイル名の変更

1. ファイル名を変更するファイルを選択します。
2. メニューバーの *Actions--Rename* をクリックします。 *Rename Local File / Rename Remote File* ダイアログボックスがオープンします。

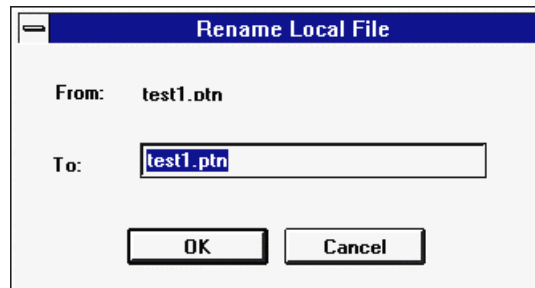


図 3-5 *Rename Local File* ダイアログボックス

3. 新しいファイル名を入力し *OK* ボタンをクリックします。

## ローカル（本器）またはリモートホスト上のファイルの削除

ローカルまたはリモートホスト上のファイルを選択（複数ファイルの選択可）し、メニューバーの *Actions --Delete* を選択します。

*Prompt* オプション（メニューバーの *Option--Prompt*）が ON の場合は *Confirm Delete* ダイアログがオープンします。 *Yes* のクリックまたは *Enter* キーを押すことでファイルを削除します。

*Prompt* オプションが OFF の場合は削除の確認ダイアログは表示されません。

## ファイル転送の中断

1. メニューバーの *Actions--Stop* をクリックします。

*Actions--Transfer* の選択、ツールバーの *transfer* (矢印) ボタンのクリック、または **get, put, recv, send, aget, aput, bget, bput, mget** や **mput** の *FTP Command* によりファイル転送を開始します。

### Note

---

---

ファイル転送中に中断した場合は転送しようとしたファイルの一部が転送先のホストに残る場合があります。

---

---

2. 複数のファイルを転送時に、ある特定のファイルの転送を中断したい場合は *Confirm File Transfer* ダイアログで *No* を選択します。

### Note

---

---

*Prompt* オプション (メニューバーの *Option--Prompt*) が **OFF** の場合は *Confirm File Transfer* ダイアログを表示せずに選択されたすべてのファイルを転送します。

---

---

## 転送先ディレクトリの変更

転送先ディレクトリの変更は、ディレクトリリストボックスまたは *FTP Command* によって変更します。

- ディレクトリリストの場合は目的のディレクトリが表示されるまでリストをクリックします。
- *FTP Command* の場合は **cd [rdir]** または **lcd [ldir]** と入力するか、またはプルダウンメニューから **cd [rdir]** または **lcd [ldir]** コマンドを選択します。

### Note

---

---

メニューバーの *Option -- Auto refresh* が **OFF** の場合はファイルリストを表示更新するために *Action--Refresh* を選択する必要があります。

---

---

### 3.2.6 スクリプトファイルの動作

FTP スクリプトファイルはテキストエディタで作成できるテキストファイルです。このファイルには *FTP Command* メニュー（またはオンラインヘルプの *FTP Command Reference* をご参照ください）で表示されるあらゆる FTP コマンドを記述することができます。一行につき一つのコマンドを記述する必要があります。

スクリプトファイルの実行はメニューバーの *Script* を選択します。*Script* の詳細は下記のとおりです。

表 3-6 Script メニューの詳細

項目	詳細
<i>Run</i>	選択されているスクリプトファイルを実行します。
<i>Select</i>	実行するスクリプトファイルを選択します。メニューバーの <i>Script--Select</i> を選択します。 <i>Select Script File</i> ダイアログボックスが表示されますので、リストボックスからスクリプトファイルを選択するかファイル名を入力し <i>OK</i> ボタンをクリックします。
<i>Edit</i>	スクリプトファイルを編集します。
<i>Auto run on init</i>	<i>.ft</i> ファイル（セッション設定ファイル）の読み込み時に選択されているスクリプトを自動実行します。この設定は <i>ON</i> または <i>OFF</i> 状態が選択ごとに反転します。

### 3.2.7 セッション設定の保存

メニューバーの *File--Save* を選択します。またはメニューバーの *File--Exit* 選択時に表示される *Save Changes* ダイアログボックスで *Yes* ボタンをクリックします。この後、保存するファイル名とディレクトリを入力するダイアログが表示されます。

保存するファイルの拡張子はデフォルトで *.ft* が表示されますが、別の拡張子に変更することも可能です。

### 3.2.8 セッションファイルのオープン

保存されているセッションファイルをオープンするには：

1. メニューバーの *File--Open* を選択します。  
または  
ツールバーの *File..Open* ボタンをクリックします。  
デフォルトディレクトリ内の拡張子が *.ft* であるセッションファイルがリストに表示されます。
2. オープンするファイルを選択します。
3. *Connect* ボタンをクリックします。
4. 接続に成功すると *File Transfer* ダイアログボックスが表示されます。

*File* メニューには以前に選択された *.ft* ファイルのリストが表示されますので、そのファイルを選択してオープンすることも可能です。

### 3.2.9 複数セッションのオープン

オープン可能なセッション数の限度は利用可能なメモリ量に依存します。

セッションがすでにオープンしている状態で、新たに別のセッションを追加するためにはメニューバーの *File* からの下記のとどちらかを選択します。:

- *New*
- *Open*

*FTP Login* ダイアログボックスが表示された場合の操作は「3.4.2 セッションの新規作成」をご覧ください。セッションを切り替えるには、アクティブにしたいセッションの *FTP* ウィンドウ画面をクリックします。

### 3.2.10 セッションファイルの編集

メニューバーの *Edit--FT document* の選択により、選択した *.ft* ファイルを編集し、保存されているユーザネームやパスワードまたは他の設定を変更することが可能です。

1. メニューバーの *Edit--FT document* を選択します。*Edit an FT Document* ダイアログボックスがオープンしますので編集するファイルを選択し、*OK* ボタンをクリックします。  
デフォルトディレクトリ (*C:\PATHWAY*) に *.ft* ファイルが存在しない場合はドライブの変更やディレクトリの変更または *File name* 入力フィールドの *Type* を変更し、セッションファイルを選択してください。*OK* ボタンをクリックすると *FTP Login* ウィンドウがオープンします。
2. 必要な設定を変更してください。
3. *Save* または *Save As* をクリックしてください。

メニューバーの *Edit-- Auto save on exit* を *ON* に設定することによりセッションのクローズ時に自動的に *FTP* セッションを保存します。

### 3.2.11 セッションのクローズ

メニューバーの *File--Exit* または *Disconnect* の選択により、セッションをクローズします。この操作により、すべての接続をクローズし、リモートホストと切断します。*FTP* ウィンドウもクローズします。下記の内いずれかの操作により、セッションがクローズします。

- *FTP* ウィンドウの左上にあるコントロールメニューボックスから *Close* を選択する。
- メニューバーの *File--Exit* を選択する。
- メニューバーの *File-- Disconnect* を選択する。

セッションが *File--New* によりオープンしていた場合またはセッションの設定が変更されていた場合にはセッションの保存を確認する警告メッセージが表示されます。

### 3.3 FTP サーバの使い方

FTP サーバアプリケーションは本器を FTP サーバにするアプリケーションであり、ネットワーク上の他のユーザが本器からファイルコピーを行うことまたは本器へのファイルコピーを行うことが可能となります。本器を FTP サーバとして動作させるには、FTP サーバアプリケーションを起動し、本器にログインするネットワーク上の他のユーザに関する各種パラメータの設定を行う必要があります。また、FTP サーバアプリケーションをアイコン状態で起動するか、またはウインドウをオープンした状態で起動するかを必要に応じて選択可能です。ウインドウがオープンした状態で起動している場合は他のユーザの本器へのログインまたはログアウトの状況を表示します。

ユーザ ID 単位のアクセス権を設定することにより、本器に対するすべての FTP アクセスを完全な管理下に置くことが可能となります。設定可能なアクセス権は下記のとおりです。

- アクセス可能なディレクトリの設定
- リード/ライトに関する設定
- パスワードの設定。（パスワードを必要としない設定も可能。）

また、FTP サーバは他のユーザからのアクセス状況をモニタしています。他のユーザが本器にログインした場合には FTP サーバウインドウ内にアイコンが表示されます。このアイコンをオープンするとセッションのアクセス記録が表示されます。FTP セッションが動作中にログをモニタすることもできますし、後でその結果を見直すこともできます。

さらに現在稼働中の FTP セッションを切断することなく、ファイル転送サービスの ON/OFF が設定可能です。

#### 3.3.1 FTP サーバの起動

FTP サーバを下記の手順で起動します。

1. プログラムマネージャより、「PathWay Access」グループを開いてください。

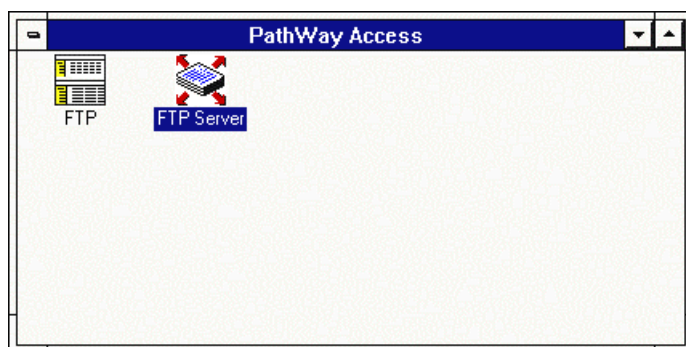


図 3-6 PathWay Access グループ

2. FTP Server アイコンをダブルクリックします。サーバアイコンが Windows ディスクトップに表示されます。

#### Note

デフォルトの設定では、FTP サーバは最小化状態（アイコンで表示）で動作します。

3. ディスクトップ上のアイコンのダブルクリックします。FTP Server ウィンドウがオープンします。

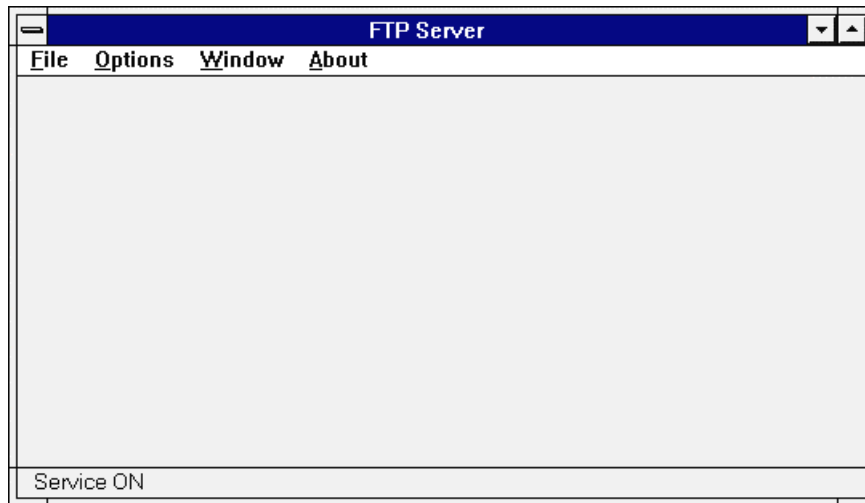


図 3-7 FTP Server ウィンドウ

4. メニューバーの File--User Setup...を選択します。User Setup ダイアログボックスがオープンしますので、サービスを許可する usernames の設定を行います。（詳細は次節をご参照ください。）
5. ユーザリストの設定が完了したら Exit ボタンをクリックし User Setup ダイアログボックスを終了します。
6. FTP Server ウィンドウのステータスバーの表示が「Service ON」に変化していることをご確認ください。「Service OFF」の場合にはメニューバーの Options--Service On を選択してください。
7. FTP サーバに対するアクセス状況の確認が不要な場合は FTP Server ウィンドウをアイコン化することも可能です。必要な場合は FTP Server ウィンドウをオープンのままご使用ください。

### 3.3.2 FTP Server ウィンドウの設定

FTP Server ウィンドウは、オープンした直後はメニューバーが表示されるだけの画面となっております。FTP サーバの管理機能はすべて FTP Server ウィンドウのメニューバーから設定します。メニューバーの詳細は下記のとおりです。

表 3-7 FTP サーバメニューコマンド

メニュー名称	コマンド	詳細
File	User Setup...	User Setup ダイアログをオープンします。本ダイアログボックスで本器にアクセスするすべての FTP アクセスを管理します。
	Exit	FTP サービスを終了し、FTP サーバアプリケーションを終了します。このコマンドの実行により、実行中のすべての FTP セッションを中断します。稼働中の FTP セッションを切断せずにサービスを中断する場合はメニューバーの <i>Options-Service On</i> を OFF (チェックを外す) にしてください。
Options	Service On	ON (チェックする) に設定すると FTP サーバはファイル転送サービスを ON にし、FTP ユーザはファイル転送サービスの利用が可能となります。また、FTP Server ウィンドウ下部のステータスバーには「Service ON」が表示されます。
		OFF (チェックを外す) に設定する FTP サーバは新たなログインを受け付けません。また、FTP Server ウィンドウ下部のステータスバーには「Service OFF」が表示されます。
		サービスを OFF にしても稼働中の FTP セッションは切断しません。
Window	Minimize on open	ON (チェックする) に設定すると FTP Server ウィンドウはアイコン状態で動作します。デフォルトは ON です。OFF (チェックを外す) に設定すると FTP Server ウィンドウはオープン状態で動作します。

### 3.3.3 ユーザアクセスの管理

FTP サーバの動作中はネットワーク上のすべてのユーザから本器へのアクセスが可能であるため、アクセスを許可するディレクトリやファイルを管理することが重要です。

ユーザアクセス権の設定の一例を下記に説明します。

- **Anonymous** または **guest** アクセス： 本器からのファイルコピーのみを許可したアクセスです。FTP でアクセス可能なディレクトリを制限しかつ *read* の権利しか与えません。また、ユーザに対してはログインしたディレクトリのファイルとその下階層のサブディレクトリのみを表示し、ユーザは表示されたファイルを自身のシステムにコピーすることしか許されません。必要に応じてパスワードの設定も可能です。
- **User home directory** アクセス： *home* ディレクトリを設定してアクセス権を限定したアクセスです。このユーザ名でアクセスしたユーザは *home* ディレクトリ内のファイルの *Read* および *Write* の双方の権利を有し、*home* ディレクトリ内であればファイルやサブディレクトリの追加や削除を行うことができます。一般的にはパスワードを必要とします。
- 上記「anonymous」と「home directory」を組み合わせたアクセスも考えられます。
- **Superuser** アクセス： 特定ユーザ、たとえばシステム管理者などに対して与える制限のないアクセスです。パスワードは必須です。

## User Setup ダイアログボックス

メニューバーの *File* からオープンする *User Setup* ダイアログボックスでは、新規 FTP ユーザの追加、既存ユーザの削除やユーザ設定情報の変更を行います。

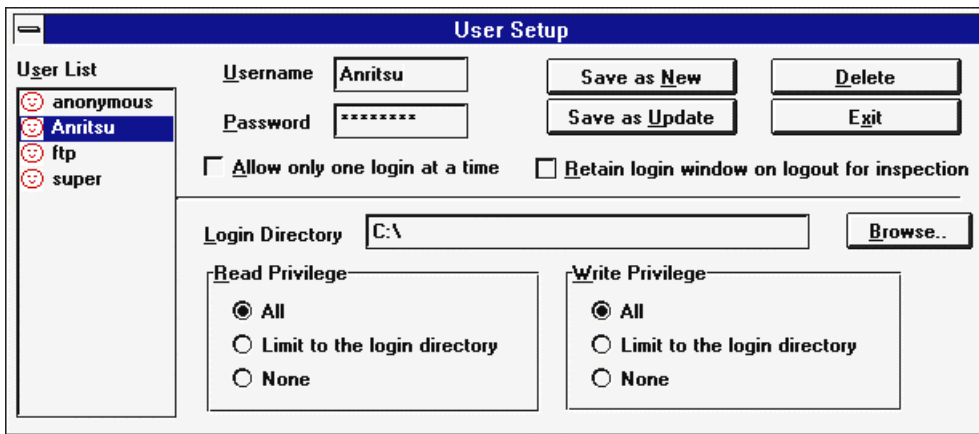


図 3-8 User Setup ダイアログボックス

インストール直後にこのダイアログボックスを開いたときにはサンプルユーザ名として「anonymous」、 「ftp」および「super」の3つがセットアップされています。User List のユーザ名をクリックすると、そのユーザ名での設定状態を見ることができます。

これらのサンプルユーザ名を削除することもできますし、設定内容を変更することもできます。もちろんそのまま使用することもできます（「anonymous」および「ftp」をそのまま使用する場合は対応する *Login Directory* を作成しておく必要があります）。なお、「super」のユーザ名をそのまま使用する場合には、パスワードを新しいパスワードに変更してご使用ください。

User Setup ダイアログボックスの設定に関する詳細は下記のとおりです。

表 3-8 User Setup ダイアログボックスの設定(1/3)

項目	詳細
User List	登録されている FTP ユーザ名のリストです。Username フィールドで任意のユーザ名を入力することでユーザ名を追加します。また既存のユーザ名を選択すると現在の設定状態を表示します。
Username フィールド	新規のユーザ名を入力します。また User List に表示されている既存ユーザ名のクリックによりそのユーザ名を表示します。
Password フィールド	パスワードの設定または変更を行います。入力したパスワードは表示されず、代わりにアスタリスク（*）をパスワードの文字数分だけ表示します。パスワードの設定が不要な場合（たとえば「anonymous」や「guest」）は空白（アスタリスクが表示されない）状態のままで何も入力しません。



表 3-8 User Setup ダイアログボックスの設定(2/3)

項目	詳細
User login チェックボックス	<p><i>Allow only one login at a time :</i> ON (チェック状態) に設定することで、選択されているユーザ名でのログインは同時に 1 ユーザしか許可しません。この機能により、たとえば「super」のユーザでのアクセスは同時に 2 人以上アクセスできないようにすることが可能になります。</p> <p><i>Retain login without on logout for inspection :</i> ON (チェック状態) に設定することで、セッション終了後もログウインドウを保持します。この機能により、FTP セッションの記録を保持し、後で記録を見直すことが可能になります。</p>
<i>Login Directory</i> フィールド	<p>選択されているユーザのログイン時のカレントディレクトリを設定または変更します。また、ユーザからの <b>Read</b> または <b>Write</b> アクセスをログインディレクトリ内のファイルに限定することも可能です。<b>Read</b> アクセスに関する制限および <b>Write</b> アクセスに関する制限も設定可能です。この制限を有効にするためには、<i>Read Privilege</i> または <i>Write Privilege</i> 選択エリア内の <i>Limit to the login directory</i> を選択します。</p>
<i>Browse...</i> ボタン	<p><i>Login Directory</i> を選択するための <i>Browse</i> ダイアログボックスをオープンします。選択したディレクトリパスが <i>Login Directory</i> フィールドに設定されます。</p>
<i>Read / Write Privilege</i> 選択エリア	<p>ユーザからのファイルアクセス権のレベルを選択します。アクセス権のレベルに対応した項目をクリックして選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— <i>Read privileges</i> 選択エリア：リードアクセス（本器からユーザのシステムへのファイル転送）に関するアクセス権の設定を行います。</li> <li>— <i>Write privilege</i> 選択エリア：ライトアクセス（ユーザのシステムから本器へのファイル転送およびディレクトリの追加、ファイルまたはディレクトリの削除）に対するアクセス権の設定を行います。</li> <li>— <i>All</i>：すべてのアクセス権を与えます。</li> <li>— <i>Limit to the login directory</i>：<i>Login Directory</i> フィールドで指定したログイン・ディレクトリ内のファイル（サブディレクトリも含む）についてのアクセス権を与えます。ログイン・ディレクトリ以外のディレクトリにアクセスすることはできません。</li> <li>— <i>None</i>：アクセスを禁止します。</li> </ul>
<i>Save as New</i> ボタン	<p>新規のユーザ名およびその設定を <i>User List.</i> に加えます。<i>Username</i> フィールドに新しい名前を入力するとボタンが有効になります。</p>
<i>Save as Update</i> ボタン	<p>既存の設定状態を変更した場合に上書き保存します。選択しているユーザ名に対応する各種設定の変更やユーザ名自体の変更によりボタンが有効になります。</p>

表 3-8 User Setup ダイアログボックスの設定(3/3)

項目	詳細
<i>Delete</i> ボタン	<i>Username</i> 領域に登録されているユーザ名を削除します。 <i>Delete</i> ボタンをクリックすると確認のためのダイアログボックスがオープンします。 <i>Yes</i> のクリックで削除を実行し、 <i>No</i> のクリックでキャンセルします。
<i>Exit</i> ボタン	<i>User Setup</i> ダイアログボックスをクローズします。何らかの設定変更を行いかつ設定を保存していない場合には、確認のためのダイアログボックスがオープンします。 <i>Yes</i> のクリックで <i>User Setup</i> ダイアログボックスをクローズし、 <i>No</i> のクリックでキャンセルします。

### 新規ユーザの登録

新規ユーザ名の設定手順は下記のとおりです。

1. メニューバーの *File--User Setup...* を選択します。*User Setup* ダイアログボックスがオープンします。
2. ユーザ名を設定します。*Username* フィールドに登録するユーザ名を入力します。
3. パスワードを設定します。ログイン時にパスワードを必要とする場合は *Password* フィールドにパスワードを入力します。パスワードが不要な場合は *Password* フィールドは空白にします。

#### Note

入力したパスワードは表示されず、代わりにアスタリスク (\*) をパスワードの文字数分だけ表示します。

4. ログインディレクトリを設定します。ログイン時のカレントディレクトリのパスを *Login Directory* フィールドに入力します。( *Browse...* ボタンをクリックして *Browse* ダイアログボックスを開き、そこでパスの指定を行うことも可能です。)
5. アクセス権を設定します。*Read Privileges* および *Write Privileges* エリアのチェックボックスでアクセス権を選択してください。
6. 設定を保存します。*Save as New* ボタンをクリックしてください。新しいユーザ名が *User List.* に表示されます。
7. 別のユーザを登録する場合は、2 から 6 の操作を繰り返します。すべての設定が終了したら *exit.* ボタンをクリックしてダイアログボックスをクローズします。

## 登録済みユーザの削除

1. メニューバーの *File--User Setup...* を選択します。 *User Setup* ダイアログボックスがオープンします。
2. 削除するユーザ名を選択します。 *User List* に表示されているユーザ名の中から削除するユーザ名を選択します。 *Username* フィールドに選択したユーザ名が表示されます。
3. *Delete* ボタンをクリックします。削除の確認のメッセージが表示されます。
4. 削除する場合は *Yes* ボタンをクリックします。キャンセルする場合は *No* ボタンをクリックします。
5. 別のユーザを削除する場合は 2.から 4.を繰り返します。すべての設定が終了したら *exit* ボタンをクリックしてダイアログボックスをクローズします。

### 3.3.4 FTP サービスの管理

ユーザからのアクセス権を管理することに加え、モニタ機能を使って FTP サービスを管理することができます。

#### サービスの制御

ネットワーク上の他のユーザが本器からのファイルを転送行うためには、FTP サーバープログラムが実行されており、なおかつ FTP サービスが ON に設定されていなければなりません。FTP Server ウィンドウで、FTP サービスの制御を設定することができます。

- To tun service on

*Options* メニューから *Service On* を選択してください。ウィンドウ下部にあるステータスバーに "Service ON,"が表示されます。

- To tun service off

*Options* メニューから *Service On* を選択してチェックを外してください。これにより、以降の外部からのアクセスは拒否されますが、その時点で行われているサービスには影響はありません。ステータスバーには "Service OFF."と表示されます。

#### サービス利用状況の監視

本器に FTP Server を通じて行われるファイル転送状況を監視することができます。また、ファイル転送状況をログとしてファイルの保存しておくことができます。

現在実行中のファイル転送を監視するためには下記の手順を行ってください。

1. FTP Server ウィンドウを開いて、表示されているユーザアイコン全員分が見えるようにウィンドウサイズを調整します。  
ユーザが本器にログインしていると FTP Server ウィンドウにアイコンが表示されます。アイコンには以下の事項が表示されています。
  - ユーザ名
  - クライアントコンピュータの IP アドレス
2. ログイン中のユーザの挙動を見るためには、見たいユーザのアイコンをダブルクリックしてください。
3. アイコンはユーザがログアウトするまでの間、あるいはタイムアウトするまでの間表示され続けます。（あるユーザが 30 分間何の操作も行わないでいると、FTP サーバーは自動的にそのユーザとの接続を遮断し、アイコンを消します。）

閉じてしまったセッションのログを後から見るためには、ユーザ登録時に設定を行います。ユーザプロファイル設定時に *Retain login window on logout for inspection* をチェックしてください。そのユーザが FTP セッションを終了した後もユーザアイコンが表示されたままになります。アイコンをダブルクリックしてユーザのセッションログを表示してください。

## 第4章 ソフトウェアのリカバリー方法

## 4.1 概要

---

測定器本体に組み込まれているオペレーティングシステムや各種制御アプリケーションに加えて、本オプションはネットワークドライバなどのソフトウェアにより制御されています。測定器をご使用の際に何らかの原因でハードディスクドライブが故障したり、ファイル操作の間違いなどにより、上記ソフトウェアの一部が壊れると、本体の機能を含めてネットワーク機能が正しく機能しなくなることがあります。

このようなことが起こった場合は、本オプションに添付の **Installation Disk** を使用して、ソフトウェアをリカバリーする必要があります。

本オプション添付の **Installation Disk** では、イーサネット機能に関するソフトウェアのみリカバリします。イーサネット機能以外にソフトウェア障害がある場合のリカバリについては、本章で説明する手順を行う前に、本体側のリカバリーを済ませる必要があります。本体側のソフトウェアリカバリ手順については、MP1632C の取扱説明書「ソフトウェアをリカバリーするには」を参照ください。

### Note

---

---

- ソフトウェアをリカバリーすると、「2.2.2 設定手順」で行ったネットワーク設定や、FTP クライアントで保存したセッション設定ファイルが失われます。これらのバックアップを取ることをお勧めします。
  - **Installation Disk** を測定器本体以外の機器（パーソナルコンピュータなど）で使用しないでください。ソフトウェア使用の際の契約違反となります。
- 
-

## 4.2 リカバリーの手順

本オプションのソフトウェアのリカバリを行う前に、Windows®および、測定器本体の制御アプリケーションが正常に動作している状態であることを確認してください。正常に動作していない場合は、本体添付の取扱書を参照して本体側のソフトウェアをリカバリしてください。

1. 本体の制御アプリケーションを、File メニューから **Exit** を選択して終了してください。
2. 以下の手順に従って、Program Manager 以外の Windows アプリケーションをすべて終了してください。
  - (1) 画面上の壁紙（ウィンドウが表示されていない場所）をダブルクリックして、Task List ダイアログボックスを開いてください。

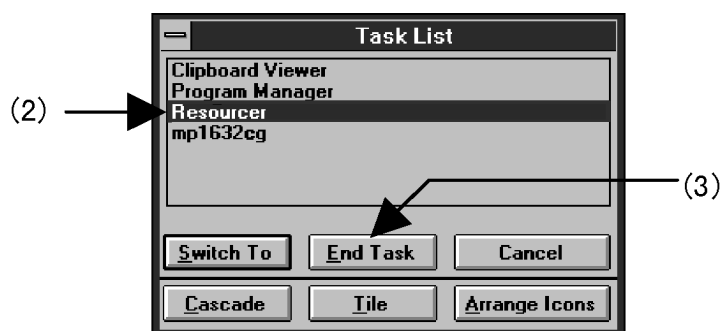


図 4-1 Task List ダイアログボックス

- (2) リスト中の閉じるべきアプリケーションをクリックし、反転してください。
  - (3) End Task ボタンを押してください。
  - (4) (2)から(3)を繰り返して「Program Manager」以外のアプリケーションを終了してください。
3. 本体のフロッピーディスクドライブに、Installation DISK No.1 を挿入してください。
  4. Program Manager の File メニューから Run を選択してください。ダイアログボックスが開かれますので、Command Line テキストボックスに「A:\SETUP.EXE」を入力して OK ボタンを押してください。
  5. ソフトウェアのリカバリが始まりますので、画面の指示に従ってフロッピーディスクを差し替えてください。
  6. リカバリが終了するとメッセージが表示されますので OK ボタンを押してシステムを再起動してください。

